



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月7日  
東

上場会社名 シップヘルスケアホールディングス株式会社 上場取引所  
 コード番号 3360 URL <https://www.shiphd.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大橋 太  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 横山 裕司 (TEL) 06-6369-0130  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	407,120	12.1	13,416	8.6	12,895	4.2	7,450	6.7
2022年3月期第3四半期	363,154	—	12,359	△14.6	12,374	△16.8	6,983	△20.9

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 9,264百万円(63.9%) 2022年3月期第3四半期 5,653百万円(△46.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	78.96	71.57
2022年3月期第3四半期	74.01	67.10

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。これにより、売上高につきましては、対前年同四半期増減率を記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	370,136	126,906	33.4
2022年3月期	335,074	122,318	35.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 123,733百万円 2022年3月期 118,289百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	41.00	41.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	42.00	42.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	560,000	8.9	21,000	2.4	21,000	△1.4	12,500	2.7	132.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	101,669,400株	2022年3月期	101,669,400株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	7,319,138株	2022年3月期	7,319,116株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	94,350,266株	2022年3月期3Q	94,350,312株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う行動制限の緩和や政府の観光支援策の影響から国内の社会経済活動に回復の兆しが見え始めた一方、ロシア・ウクライナ情勢長期化による資源価格の高騰、それに伴う物価高の懸念、急激な円安の進行等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの属する医療業界では、新型コロナウイルス感染症等にも対応できる効率的・効果的で質の高い医療提供体制の構築や安心・安全で質の高い医療の実現のための医師等の働き方改革等の推進が求められております。

このような状況の下、当社グループにおきましては、全事業に共通してエネルギー価格や原材料価格高騰の影響を受けた一方、トータルパックプロデュース事業のプロジェクト案件が順調に推移したこと等により、概ね計画通りに推移いたしました。また、中期経営計画で掲げた4つの重点施策「コア事業の更なる高成長」「積極的なバリエーションの拡大」「機能強化戦略」「サステナビリティに対する取組み」については引き続き推進を致しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は407,120百万円（前年同四半期連結累計期間比12.1%増）、営業利益は13,416百万円（前年同四半期連結累計期間比8.6%増）、経常利益は12,895百万円（前年同四半期連結累計期間比4.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は7,450百万円（前年同四半期連結累計期間比6.7%増）となりました。

セグメントごとの経営成績を示しますと次のとおりであります。

#### ①トータルパックプロデュース事業

トータルパックプロデュース事業におきましては、引き続きメーカー系で電装部品調達難や原材料価格の高騰の影響を受けたことに加え、ミャンマー子会社でも金融規制による影響を受けました。一方で、プロジェクト案件の完成及び新規受注が堅調に推移いたしました。また、重粒子線がん治療施設においては2022年4月から保険適用対象部位が拡大したことにより新規外来受診者数及び治療件数が増加いたしました。

この結果、売上高は77,904百万円（前年同四半期連結累計期間比39.5%増）、セグメント利益（営業利益）は4,899百万円（前年同四半期連結累計期間比21.0%増）となりました。

#### ②メディカルサプライ事業

メディカルサプライ事業におきましては、原材料価格や物流コスト高騰の影響を受けた一方で、新規SPD施設稼働が順調に推移いたしました。また、手術症例数が増加したこと等により診療材料需要が回復いたしました。

この結果、売上高は282,204百万円（前年同四半期連結累計期間比5.8%増）、セグメント利益（営業利益）は4,372百万円（前年同四半期連結累計期間比4.4%増）となりました。

#### ③ライフケア事業

ライフケア事業におきましては、給食事業において食材高騰の影響を受けるとともに、新規M&A関連費用等を計上いたしました。また、介護事業においては高い入居率を維持しましたが、光熱費高騰の影響を受けました。

この結果、売上高は24,331百万円（前年同四半期連結累計期間比28.8%増）、セグメント利益（営業利益）は1,709百万円（前年同四半期連結累計期間比6.3%減）となりました。

#### ④調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、小規模のM&Aや経営効率化等を実施いたしました。また、薬価改定の影響及び新規出店に伴う先行費用の計上等により業績は低調に推移いたしました。

この結果、売上高は22,680百万円（前年同四半期連結累計期間比4.8%増）、セグメント利益（営業利益）は2,322百万円（前年同四半期連結累計期間比4.9%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は370,136百万円となり、前連結会計年度末と比べて35,061百万円増加いたしました。その主な要因は、「受取手形、売掛金及び契約資産」が1,833百万円減少した一方、「現金及び預金」が10,783百万円、「のれん」が6,394百万円、「商品及び製品」が5,350百万円、「建物及び構築物」が3,504百万円増加したこと等によるものであります。

負債は243,229百万円となり、前連結会計年度末と比べて30,473百万円増加いたしました。その主な要因は、「未払法人税等」が2,848百万円減少した一方、「短期借入金」が9,153百万円、「電子記録債務」が7,257百万円、「長期借入金」が4,189百万円増加したこと等によるものであります。

純資産は126,906百万円となり、前連結会計年度末と比べて4,587百万円増加いたしました。その主な要因は、配当金の支払により「利益剰余金」が3,868百万円、「非支配株主持分」が855百万円減少した一方、「親会社株主に帰属する四半期純利益」により「利益剰余金」が7,450百万円増加したこと等によるものであります。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は33.4%（前連結会計年度末比1.9ポイント減）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、概ね当初予定通りに推移しており、2022年5月10日に公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	73,808	84,591
受取手形、売掛金及び契約資産	113,429	111,596
電子記録債権	4,720	5,855
リース投資資産	3,634	3,493
商品及び製品	18,778	24,128
仕掛品	2,317	3,693
原材料及び貯蔵品	1,010	1,703
その他	9,724	11,387
貸倒引当金	△895	△1,007
流動資産合計	226,529	245,442
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	20,245	23,749
土地	16,293	18,087
賃貸不動産（純額）	10,993	11,005
その他（純額）	10,464	12,546
有形固定資産合計	57,995	65,388
無形固定資産		
のれん	8,336	14,730
その他	1,017	1,179
無形固定資産合計	9,354	15,910
投資その他の資産		
投資有価証券	23,608	25,629
長期貸付金	7,518	7,233
その他	11,810	12,311
貸倒引当金	△1,741	△1,780
投資その他の資産合計	41,195	43,394
固定資産合計	108,545	124,693
資産合計	335,074	370,136

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	100,071	104,073
電子記録債務	22,173	29,431
短期借入金	2,401	11,554
未払法人税等	4,980	2,132
賞与引当金	2,461	1,395
1年内償還予定の新株予約権付社債	-	25,022
その他	16,281	23,677
流動負債合計	148,371	197,288
固定負債		
新株予約権付社債	25,041	-
長期借入金	29,970	34,160
退職給付に係る負債	2,938	3,400
資産除去債務	873	1,098
その他	5,560	7,282
固定負債合計	64,384	45,941
負債合計	212,756	243,229
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	15,553	15,553
資本剰余金	23,908	23,533
利益剰余金	91,964	95,546
自己株式	△15,526	△15,526
株主資本合計	115,899	119,105
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,503	3,254
繰延ヘッジ損益	1	2
為替換算調整勘定	842	1,329
退職給付に係る調整累計額	44	41
その他の包括利益累計額合計	2,390	4,628
非支配株主持分	4,028	3,172
純資産合計	122,318	126,906
負債純資産合計	335,074	370,136

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	363,154	407,120
売上原価	326,745	365,107
売上総利益	36,408	42,012
販売費及び一般管理費	24,049	28,596
営業利益	12,359	13,416
営業外収益		
受取利息	212	237
受取配当金	153	169
持分法による投資利益	74	-
貸倒引当金戻入額	2	9
その他	266	351
営業外収益合計	708	768
営業外費用		
支払利息	214	306
持分法による投資損失	-	7
為替差損	367	929
支払手数料	36	19
その他	74	26
営業外費用合計	693	1,289
経常利益	12,374	12,895
特別利益		
固定資産売却益	1	17
補助金収入	-	45
その他	1	5
特別利益合計	3	69
特別損失		
固定資産売却損	1	2
固定資産除却損	3	25
その他	-	3
特別損失合計	5	31
税金等調整前四半期純利益	12,372	12,933
法人税、住民税及び事業税	4,072	4,758
法人税等調整額	1,410	1,104
法人税等合計	5,483	5,863
四半期純利益	6,889	7,070
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△94	△379
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,983	7,450

四半期連結包括利益計算書  
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	6,889	7,070
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,575	1,751
為替換算調整勘定	323	433
退職給付に係る調整額	16	△5
持分法適用会社に対する持分相当額	0	14
その他の包括利益合計	△1,235	2,194
四半期包括利益	5,653	9,264
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,671	9,687
非支配株主に係る四半期包括利益	△17	△422

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)2
	トータルパック プロデュース 事業	メディカル サプライ 事業	ライフケア 事業	調剤薬局 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	55,864	266,757	18,887	21,644	363,154	—	363,154
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,318	967	135	80	2,502	△2,502	—
計	57,182	267,725	19,023	21,724	365,656	△2,502	363,154
セグメント利益	4,049	4,187	1,825	2,443	12,504	△145	12,359

(注)1 セグメント利益の調整額△145百万円には、セグメント間取引消去△54百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用等△87百万円等が含まれております。全社費用等は、主に親会社本社の子会社からの運営費用収入、営業費用及び報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費の純額であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、管理区分の変更に伴い、従来「その他」に含まれていた事業を「トータルパックプロデュース事業」等を含める等、報告セグメントの区分変更を行っております。

## 3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

当第3四半期連結累計期間において、固定資産に係る重要な減損損失の認識、のれんの金額の重要な変動及び重要な負ののれん発生益の認識はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 2
	トータルパック プロデュース 事業	メディカル サプライ 事業	ライフケア 事業	調剤薬局 事業	計		
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	77,904	282,204	24,331	22,680	407,120	—	407,120
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,141	1,215	66	80	3,504	△3,504	—
計	80,046	283,419	24,398	22,760	410,624	△3,504	407,120
セグメント利益	4,899	4,372	1,709	2,322	13,303	113	13,416

(注) 1 セグメント利益の調整額113百万円には、セグメント間取引消去△73百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用等191百万円等が含まれております。全社費用等は、主に親会社本社の子会社からの運営費用収入、営業費用及び報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費の純額であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結累計期間において、キングラン(株)株式を取得し、同社及び同社の子会社11社を連結の範囲に加えております。

当該事象により「トータルパックプロデュース事業」セグメントにおいて、前連結会計年度の末日に比べ資産が26,202百万円増加しております。

## 3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、キングラン(株)株式を取得し、同社及び同社の子会社11社を連結の範囲に加えております。

当該事象による「トータルパックプロデュース事業」セグメントにおけるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては7,101百万円であります。

なお、のれんの金額は当第3四半期連結会計期間末において、取得原価の配分が完了していないため、入手可能な合理的な情報に基づき暫定的に算出された金額であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。